

第4回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会 議事要旨

日時 平成25年2月18日(月)14:00~

場所 健康福祉会館4階多目的ホール

[議事]

1. 各委員会での検討結果について
 - ①地域委員会・各地域協議会の検討結果について
 - ②女性・若者委員会の検討結果について
2. リニアのまちづくりビジョン素案について
3. 今後の進め方について

[主な意見]

議事1. 各委員会での検討結果について

- 2つの検討結果について、内容は非の打ちどころのない形にまとまっている。ただ、「こういうまち(地域)にしたい」という願望について具体的な話や活動内容に結びついていない。
- 地域の良さ、中津川の良さなど、生活している住民自身何がいいのか気づいていない。特に地場産業、観光を考える場合には、よその人の視点にたって考えないといけない。今後活動していく中で提案したいのは、地域から首都圏などに出て行って活躍している仲間を呼び、自分の故郷を振り返って何が魅力的かと聞くような場を設けたらどうか。外の人はどう見ているかももう少し情報をいれていくとわかりやすい。
- 女性・若者委員会の中津川らしさについて「らしさ」がまだ深掘りされていないように感じる。若者らしく、現状を認識して掘り下げていくべきである。例えば、教育、子育て考えたときに、移住・定住を増進させるためにも教育をどこの地域にも負けないようにしないとイケない。課題に対処するだけでなく、もっと前向きになって取り組むべきである。

議事2. リニアのまちづくりビジョン素案について

- キャッチフレーズについて、言いたいことが並べてあつてくどい感じがする。さらっとした短いものにできないか。“いなかまち”という言葉は印象が残るようにあえて使っているとのことであったが、この言葉は好きになれない。また、訪れてよし、住んでよしも補足で説明するくらいでいいのではないか。
- 内部の資料であれば長いフレーズでよいが、対外向けのフレーズとしては長すぎる。例えば、「リニアが停まる日本の真ん中なかつがわ」それくらいで十分ではないか。
- 清流の国、リニア宿というフレーズは気に入っている。“日本の真ん中”という言葉も分か

- りやすい。例えば、「日本のど真ん中、清流の国、リニア宿なかつがわ」が考えられる。
- 中津川市や恵那市は、映画「青い山脈」のロケ地となりそのイメージがある。この地域は「青い山脈」の良さを地域の良さとして強調していくのがいいのではないか。「青い山脈」の意味は、山のことだけではなく、同じに映画で描かれているのは“青年”たちのことも含まれている。「今日より明日がよくなる」、「先を語り合う」、「エネルギーに動く」といった、青春の「青」も含まれている。さらにいうと馬籠が舞台となった島崎藤村が書いた小説「夜明け前」があるが、主人公は神道に関心があって、動き回り、交流について書かれており、明治維新の夜明け前を捉えている。このモチーフは「青い山脈」とつながる。リニア時代がはじまるとすれば、「夜明け前」の場所に新たな「夜明け前」が訪れることになる。このような意味合いで自然が美しく若者のイメージを短いキャッチフレーズで表現できるといいと思う。
 - “いなか”という言葉について、所詮はこの地域は“いなか”である。それはそれで味付けがあるように感じる。この言葉自体が話題性に富んでいるという点で、“いなか”はありと考える。中途半端に丸く収まるよりも角が立つキャッチフレーズの方が、非難があるそれに耐えれば一定の効果はある。
 - キャッチフレーズが自信を持って言える内容であればそれでいいが、ただ自信が出せないようならば良く考えないといけない。特に若い人たちの意見や気持ちを聞いた方がいい。
 - キャッチフレーズは今日決めないといけないタイミングでもない。夏までにセンスのいいものがでてくるのを期待する。意見があれば事務局に寄せていただきたい。ここで結論は出さなくて継続審議としたい。
 - 中津川市、恵那市の両市と両商工会議所と懇談の場があった。恵那市との連携が大事と言ってきた。同様の策定委員会は恵那市にもある。どのタイミングで一緒にやっていくのか。
 - リニア車両基地ができるということは始発が出るまちともいえる。これを念頭に置くことが大事ではないか。中津川らしさは何か。この地域から輩出した多くの人から魅力を掘り起こすことも重要である。
 - いろいろなことが丁寧に盛りだくさん書かれていて良い素案となっている。素案に書かれていることを実行していくのは、一人ではできないが市民一人一人ができることからやるのが大切であると感じた。
 - 今年の秋に駅位置が公表され、あっという間に着工となる。建設中の経済効果は大きいとの試算結果がある。何もしないと東京に持って行かれてしまう。一人一人が意識して、少しでも地域の中にお金を落とすようにすることが大事である。
 - この素案にはいろいろな内容が盛り込まれていておもしろい内容になっている。特に観光については具体的な取組例が組まれていてわかりやすい。次の段階では、こうした取組みを発信して、多くの人に中津川市のことを知っていただけるように、報道関係者をうまく活用して PR していければよい。報道に対する具体策を考えてみてはどうかと思

う。

- これからビジョンを実現していくにあたって行政として組織をどうしていくのかが見えない。これだけのものを実現していくには、行政として相当な人員とコストを割いて対応していかないと実現しないと考える。
- これから出てくると思われる様々な問題に対して、首長、議会、行政、まちづくり協議会一体になって対応していかないといけない。加えて、このプロジェクトをどういう行政組織で作っていくのかについての内容が欠けていると感じた。
- 第7章の今後の取り組みについて書き込みが十分でない。「組織として行政と住民の関わり方をどう展開していくのか」、「恵那市との連携関係をどうするのか」、「10年間の工事期間をどう活用するのか」といった書き込みが足りないとの指摘もあった。また、土地の手当てに対して、行政は事業者との間をどう取り持つか、そのあたりの取り組みをもう少し書き込む必要がある。
- 第6章に駅・周辺の地域づくりのところで、コンパクトな商業機能や駅前居住についてどのくらいの規模とするのかが課題である。大きな話になりがちで不良債権の話も出てくるので慎重に対応していく必要がある。
- 中津川市、恵那市が連携しながら車両基地の宿舎や規模を一体的に考えることも大事である。
- 商業は駅ビルの中に取り込んだ方がいいと考える。駅舎自体はJRがつくるといっている。ビル事業はどうやっていくのか。民間事業で任せきりになると暴走する恐れもあるかもしれない。できるだけ地元資本を取り入れられるようにPFIなどの事業方式を考えておく必要がある。その触れるきっかけをつくるべきであろう。

議事3. 今後の進め方について

- いろいろな案が書かれており、夢もある。これをどういう形で具体化させていくのかが大事である。ビジョン完成までのスケジュールが書いてあるが、ビジョンをどういう形で具体化を図っていくのか、自由活発な意見をどう反映するのか。ビジョンの具体化に向けた組織作りへの対応・仕組みを検討いただきたい。